

8. 千葉県らしい資源循環型社会づくりの推進

～資源循環型の社会づくり～

地球の資源、環境は有限です。このため、天然の資源を大量に消費し、環境への負荷が大きいこれまでの社会経済システムから、持続可能な資源循環型の社会へ転換を図らなければなりません。

そこで、千葉県では、県民、NPO・NGO、事業者、市町村等の参加のもとで、14年10月に「千葉県資源循環型社会づくり計画」を策定し、本県が有している地域特性や潜在能力を活かした、千葉県らしい資源循環型社会づくりを目指しているところです。

そして、計画の着実な進展を図るため、県民、事業者、学識経験者、NPO・NGO、行政等の関係者が参画する「千葉県資源循環型社会づくり推進会議」を16年3月に設置し、この会議を通して、計画の進展状況の確認や問題点・課題の分析を行い、計画の改善・見直しの方向性等を打ち出していくための取組を進めています。

資源循環型社会を目指す身近な取組としては、職場や家庭において、県民一人ひとりが、大量消費、大量廃棄型の生活様式を見直す3R推進事業を進めています。

県内消費者団体、県内市町村でも取り組まれている「買い物袋持参運動（マイバッグ運動）」もその1つです。

県においても、より一層の普及啓発のため、15年度は3市、16年度は5市1町と共同で「マイバッグ運動」を実施しました。

今後は、マイバッグ運動への参加店舗やモニターのアンケート意見を基に、より一層の普及啓発に努めて行きます。



●資源循環型社会を支えるエコタウン事業の推進

「千葉県資源循環型社会づくり計画」では、千葉県における資源循環型社会づくりの実現に向けて、「緊急性」、「波及効果」、「千葉県らしさ」などの観点から重点的に取り組むことが必要な事業を8本の戦略プロジェクトとして位置づけています。

この中の一つに「エコタウン事業の推進」があり、「千葉県西・中央地域エコタウンプラン」を活用して、民間活力による先進的な技術を用いたリサイクルなど環境産業の集積・育成を進めています。

16年12月現在の中核的リサイクル施設は、次の7施設です。（一部建設中を含む。）



● バイオマス立県ちばの推進（産学官の連携）

化石資源の枯渇問題と地球温暖化などの環境問題に対処するためにも、バイオマスの利活用が強く求められています。千葉県では、バイオマスを利用する上で高い可能性を持っているため、これを最大限に活用し、競争力のある産業と豊かな環境が両立する「バイオマス立県ちば」を目指しています。

16年度の県の主な事業としては、山武地域においてサンプスギ等の木質バイオマスの炭化技術の確立と木炭の新用途開発による木質バイオマス利活用システムの実用化への取り組みが、林業・木材業者団体、民間企業、大学等との連携により行われています。

また「千葉県北東部における農林水産バイオリサイクル研究」が国の研究テーマとして採択され、(独)農業工学研究所により、香取郡山田町で「バイオマス多段階利用実証プラント群」を整備する地域実証研究が、地元の農事組合法人の協力も得ながら行われています。

バイオマス利活用の推進

県内の豊富なバイオマス資源

家畜排せつ物、食品残さ、など



稲わら

食品残さ



バイオマス変換技術

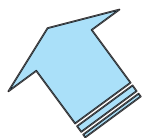
メタン発酵・ガス化変換

肥料・飼料化 炭化 ほか



ガス化溶融炉

堆肥化施設



バイオマス利活用の推進 → 温暖化防止、資源循環

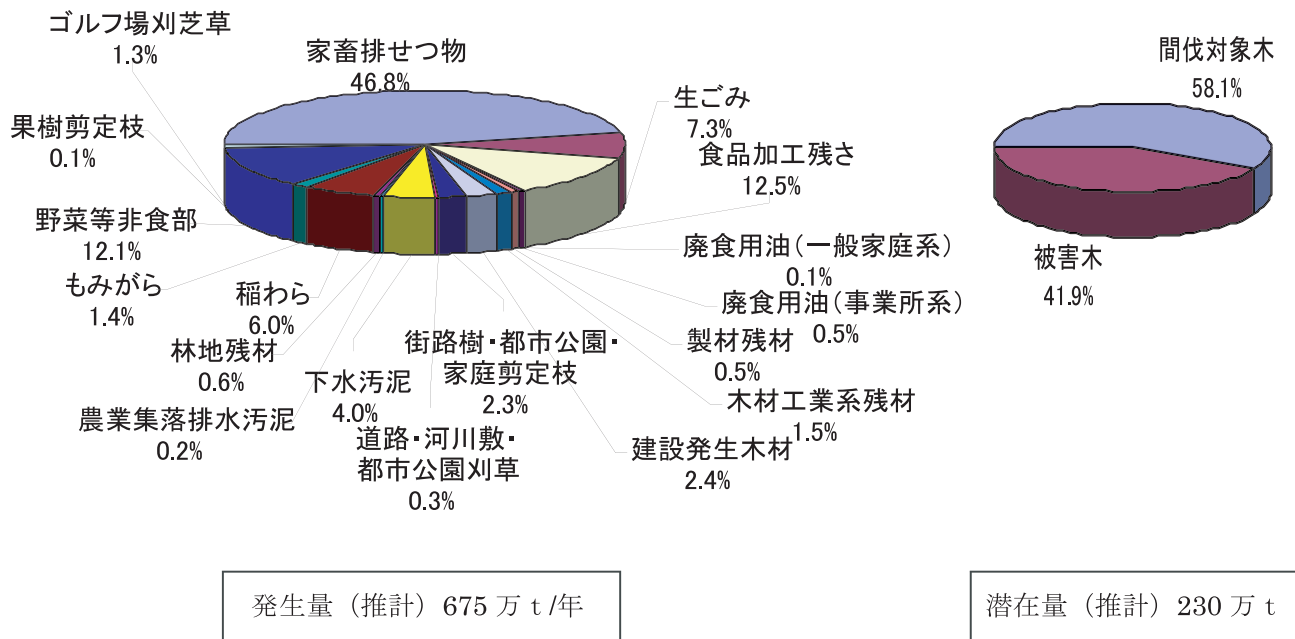


エネルギー利用



マテリアル利用

千葉県のバイオマスの資源量



千葉県では年675万トンものバイオマス資源が発生します。最も多く発生するのは家畜排せつ物で、年間約320万トンに達しています。そのほか、食品加工残さなども多いです。また、間伐対象木、被害木といった潜在資源も230万トンあります。

バイオマス (biomass) とは？

バイオマスとは、バイオ（生物資源）とマス（量）を組み合わせた言葉で、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」を指します。特徴としては、太陽エネルギーを使って生物が合成したものであるため、生命と太陽がある限り、枯渇しない再生可能な資源であること、及び焼却等しても大気中の二酸化炭素を増加させない性質があります。